

文学研究科の教育課程編成・実施の方針（Curriculum Policy：C P）

文学研究科は、「学位授与の方針」を踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施する。

（1）博士前期課程

<英米文学専攻 研究コース>

- （C P 1）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の分野のいずれかにおいて十分な専門知識を修得（D P 1）できるよう、それぞれの分野での専門科目を提供し、指導教授を中心に研究指導をする。
- （C P 2）専門分野の知識だけでなく、より幅広い分野の知識と研究手法に触れる（D P 2）ために、イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の基礎的専門科目を履修する制度（コア・カリキュラム制度）を設置し、組織的な指導体制のもとで研究指導をする。
- （C P 3）学会発表や論文執筆の能力（D P 3、D P 4）を養成するために、日本語のみでなく英語での論文執筆指導も提供する。
- （C P 4）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

<英米文学専攻 総合コース>

- （C P 5）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の十分な基礎的知識を修得（D P 5）できるよう、それぞれの分野での専門科目を提供し、指導教授を中心に研究指導をする。
- （C P 6）専門分野の知識だけでなく、より幅広い分野の知識と研究手法に触れる（D P 6）ために、イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の基礎的専門科目を履修する制度（コア・カリキュラム制度）を設置し、組織的な指導体制のもとで研究指導をする。
- （C P 7）論文執筆の能力（D P 7、D P 8）を養成するために、日本語のみでなく英語での論文執筆指導も提供する。
- （C P 8）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

<英米文学専攻 英語教育コース>

- （C P 9）英語教育研究の基礎的知識と最新の動向に触れ、理論と実践方法の十分な基礎知識（D P 9）を身につけられる専門科目を提供し、指導教授を中心に研究指導をする。

- る。
- (C P 1 0) 英語教育の場にかせるイギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学の基礎知識 (D P 1 0) を身につけられるよう、コア・カリキュラム制度を設置し、組織的な指導体制のもとで研究指導をする。
 - (C P 1 1) 英語で論文執筆ができる (D P 1 1、D P 1 2) ように、英語での論文執筆指導科目を提供する。
 - (C P 1 2) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

<日本文学専攻 研究コース>

- (C P 1) 日本語学又は日本文学の分野の専門知識と関連分野の知識を幅広く修得できる (D P 1) ように、共通講義科目を設置する。
- (C P 2) 日本語学又は日本文学の分野の知見を深め、研究能力を身に付けることができる (D P 1、D P 2) ように、個別研究科目を設置する。
- (C P 3) 修士論文の作成に向けて先行研究をふまえたうえで学術的な論文を執筆できる (D P 2、D P 3) ように、論文演習科目を設置する。
- (C P 4) 日本語学又は日本文学の分野における十分な研究能力を獲得できる (D P 2) ように、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導を行う。
- (C P 5) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

<日本文学専攻 総合コース>

- (C P 6) 日本語学及び日本文学の分野の専門知識と関連分野の知識を幅広く修得できる (D P 4) ように、共通講義科目を設置する。
- (C P 7) 日本語学又は日本文学の分野の知見を深め、研究手法を修得できる (D P 4、D P 5) ように、個別研究科目を設置する。
- (C P 8) 特定課題研究の成果の作成に向けて、たしかな根拠に基づいて論文が執筆できる (D P 5、D P 6) ように、課題研究科目を設置する。
- (C P 9) 日本語学又は日本文学の分野における研究能力を養う (D P 5) ために、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導を行う。
- (C P 1 0) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

<社会文化論専攻 研究コース>

- (C P 1) 創造性豊かで優れた研究活動を行っていくために必要とする専門知識・研究能力

- (D P 1) を修得できるよう、研究科目と演習科目の重層的な教育課程を編成する。
- (C P 2) 分野を横断した幅広い視野 (D P 2) を身につけられるよう、各自の専攻分野に加えて隣接学問分野の授業を選択できる多様な授業科目を設置する。
- (C P 3) 自らの研究課題を発見し、オリジナリティのある研究成果を適切に表現する論文作成能力 (D P 3) を修得できるよう、研究指導計画に基づいた研究指導を提供する。
- (C P 4) 専門家にふさわしい責任感と倫理性をもって研究活動する意識 (D P 4) を身につけられるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。
- (C P 5) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

<社会文化論専攻 総合コース>

- (C P 6) 優れた研究活動を行っていくために必要とする専門知識・研究能力 (D P 5) を修得できるよう、研究科目と演習科目の重層的な教育課程を編成する。
- (C P 7) 幅広い視野 (D P 6) を身につけられるよう、各自の専攻分野に加えて隣接学問分野の授業を選択できる多様な授業科目を設置する。
- (C P 8) 専門的な知識をもとに、それを実践的活動へ導く能力 (D P 7) を修得できるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。
- (C P 9) 自らの研究課題を発見し、研究成果を適切に表現する論文作成能力 (D P 8) を修得できるよう、研究指導計画に基づいた研究指導を提供する。
- (C P 10) 責任感と倫理性をもって研究活動する意識 (D P 9) を身につけられるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。
- (C P 11) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

(2) 博士後期課程

<英米文学専攻>

- (C P 1) 研究者として自立して活動するために必要とされる、専門分野における高度な専門的知識や理論 (文学批評理論、文化批評理論、言語学理論、第二言語修得理論等) を修得 (D P 1 3) できるよう、各自の専攻分野に加え、隣接学問分野の授業を選択できるように、多様な授業科目を提供し、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導をする。
- (C P 2) 英米文学文化研究、英語学研究、あるいは英語教育の学術的発展に貢献できる創

造性豊かな研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得(DP14)できるように、日本語のみでなく英語での論文執筆指導も提供する。

(CP3) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

<日本文学専攻>

(CP1) 日本語学又は日本文学の分野に関する高度な専門知識を修得できるように、特殊講義科目を設置する。

(CP2) 日本語学又は日本文学の分野の研究能力を高めることができる(DP2)ように、特殊研究科目を設置する。

(CP3) 博士論文の作成に向けて学会や専門雑誌で研究成果を発表できる(DP2、DP3)ように論文演習科目を設置する。

(CP4) 日本語学又は日本文学の分野における卓越した又は独創的な研究を展開できる能力を養う(DP2)ために、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導を行う。

(CP5) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

<社会文化論専攻>

(CP1) 研究者として自立して活動するために必要な高度な専門的知識(DP1)を修得できるように、多様な授業科目を設置する。

(CP2) 学術的発展に貢献することのできる創造性豊かな研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力(DP2)を修得できるように、研究指導計画に基づいた研究指導を提供する。

(CP3) 高度な専門家にふさわしい責任感と倫理性をもって研究活動する意識(DP3)を身につけられるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。

(CP4) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。